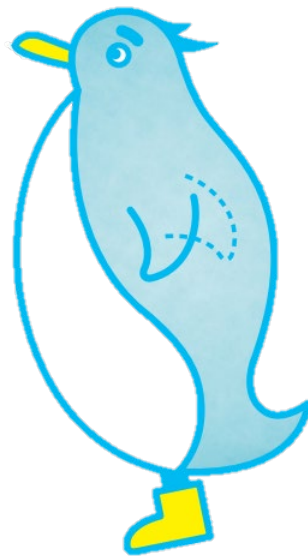


授業のヒント

2019.4.25 Ver.1





I. テキストを使う前に

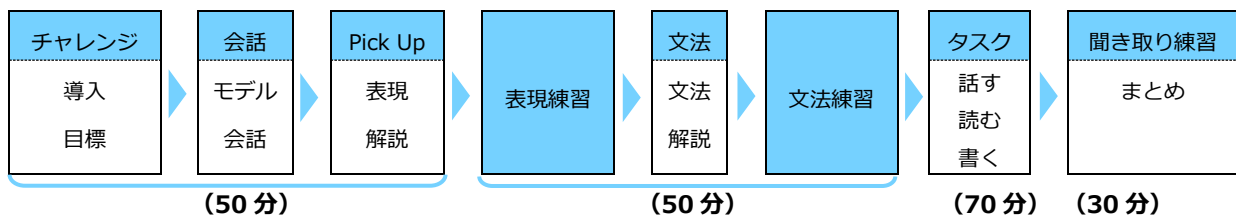


【テキストの構成】

テキストは5つの Chapter からなり、各 Chapter は2つの Section に分かれています。

| Chapter | トピック | Section 1 目標 | Section 2 目標 |
|---------|--------------|-------------------------------------|-------------------------------|
| | | くだけた表現を使う場面 | 丁寧な表現を使う場面 |
| 1 | 自分について話す | 自分の国や町の特色について説明できる | 正式な場面で印象に残る自己紹介ができる |
| 2 | 誘って出かける | 友達を誘ったり、誘いを受けたり、断ったり、都合を聞いて約束したりできる | 正式な場面で丁寧に誘いを受けたり、断ったりすることができる |
| 3 | 頼んだり、提案したりする | 友達に理由や目的を説明し、頼むことができる | 相手や目的に応じて、いろいろな頼み方ができる |
| 4 | 意見を述べる | 理由とともに自分の考えや意見を述べるができる | 正式な場面で反対意見を丁寧に伝えることができる |
| 5 | 説明する | 物事の状況を詳しく説明できる | ストーリーをわかりやすく、丁寧に説明できる |

各 Section は次の8つのパートで構成されています。下の時間は授業での時間配分の例です。



上の例は「タスク」の「書きましょう」を宿題にした場合の学習の流れです。（「書きましょう」がない Section もあります。）学生の学習状況や、授業のスケジュールや指導目的に合わせて、学習する部分を取捨選択して教えてもよいでしょう。例えば、Section 1 だけ、あるいは Section 2 だけを学習する、学生がすでに習得している文法は割愛して必要な箇所のみ扱うことも可能です。



【表現練習と文法練習について】

表現練習と文法練習では、ペア（またはグループ）で会話形式の置き換え、入れ換え練習を行います。このテキストでは、与えられた言葉や文を置き換える代入練習を「置き換え練習」と呼び、該当箇所を自由に考えて挿入する練習を「入れ換え練習」と呼んでいます。置き換え練習は、置き換える箇所が青く色づけされています。置き換える言葉や文が会話の下の①、②に提示されており、③は学生自身が自由に言葉や文を考えて練習するようになっていきます。すなわち、置き換え練習はモデル会話を含めると、同じ会話文を用いて4回練習できるようになっています。入れ換え練習は、モデル会話を含めると2回（相手を変えれば複数回）練習できます。____の部分に自分自身のことや考え、想像した言葉や文を入れる練習です。また、置き換え練習の会話文の中に____があり、入れ換え練習が含まれているものもあります。下に例としてテキストの会話を示しました。

置き換え練習

Ⅳ お勧めを提案しましょう。____は自由に考えましょう。

- ひろし : 来週 **A.神戸** に行くんだけど、どこかお勧めない？
 由美 : うーん、**B.南京町** に行くのは、どう？
 ひろし : いいねー。そうしよう。他にも何かある？
 由美 : そうだなあ、**C.ポートタワーから夜景を見る** のは、どう？
 ひろし : いいねー、そうしよう。ありがとう。
 由美 : きっとロマンチックな一日になるよ。
 ひろし : 田舎のおじいちゃんで行くだけだね。



- ① **A.沖縄** **B.美ら海水族館** **C.山原の海でスキューバダイビングをする**
 ② **A.京都** **B.金閣寺** **C.伏見稲荷の千本鳥居の下を歩く**
 ③ A~Cを自分で考えましょう

入れ換え練習

Ⅱ 日本にいる間にしたいことを話しましょう。____は自由に考えましょう。

- アメリカ : リッキーさんは日本にいる間に何がしたいですか。
 リッキー : 日本料理にとっても興味があるので、日本料理を覚えたいと思っています。
 アメリカ : いいですね。
 私は建築にとっても興味があるので、お寺や神社に行きたいと思っています。
 リッキー : おもしろそうですね。



【語彙】

一般的に日本語学習で想定される語彙レベルとは関係なく、日常的に使う語彙や、覚えておくと便利な語彙をできるだけ幅広く使用しました。各パートの最後に語彙とその英訳が載せてあります。一般的に初級で学習したと想定されるもの以外を掲載していますが、初級後半で学習する語彙で取り上げているものもあります。また巻末索引には英訳に加えて中国語訳、ベトナム語訳が載せてあります。また全ての漢字にルビを振っています。

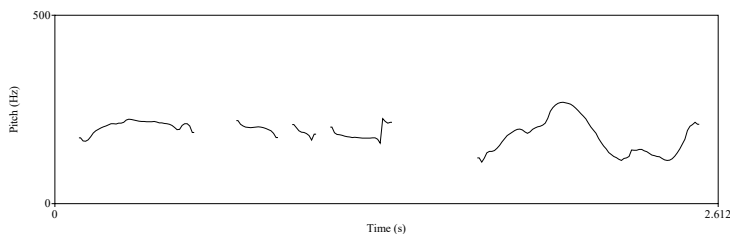
【イントネーションカーブ】

言葉によるコミュニケーションでは、相手に正しく意味や意図が通じるように、音声的な側面は非常に重要な要素です。学生にそれを意識させるために、「Pick Up」で取り上げた表現には全てイントネーションカーブを掲載しました。また「文法」でも必要に応じて掲載しています。学生イントネーションカーブは、音声分析ソフト Praat を用いて抽出したピッチ曲線（イントネーションカーブ）を簡略化したものです。音（声）の高低のイメージとして捉えてください。下の例では「とうなんぐちかいさつに」は上がり下がりが無い平坦なイントネーションで、「にじはんは」は「は」のあたりで高くなって急に下がり、文末は上がるイントネーションになっています。音声モデルを聞き、イントネーションカーブを見ながら発音すると、音の高低のイメージがつかみやすくなります。

テキストの例



音声分析ソフト Praat で抽出したピッチ曲線





【区切り】

イントネーションカーブを掲載している表現には、意味のまとまりごとに、区切りの記号（／）がつけてあります。これは、この記号のあるところで休止する（声を止める）という意味ではなく、聞き手にわかりやすいように、一つの区切りから次の区切りまでは、一まとまりとして発話するとよいという意味です。文が長い場合は、区切りの印がある場所で短い休止が入る場合もあります。音声モデルを参考にして、学生に発音の練習をさせてください。会話の文脈や話し手の話し方によって、区切りを入れる場所が変わることもあります。このテキストでは基本的に意味のまとまりごとにつけてありますが、発話のリズムを優先して、記号から記号までがやや長くなっているものもあります。

【音声】

日本人が普通に話すスピードを意識して話していますが、登場人物の性格やキャラクターによって、少し速かったり、遅かったりしています。ことばのアクセントに関しては、例えば頭高型と平板型のどちらもあるような場合には、より一般的に使われていると考えられるもの、あるいは若い世代にとって一般的な方を採用しています。

このテキストは、授業の目的や内容、学生の学習状況、授業のスケジュールによって、様々な使い方ができます。くだけた言葉や表現の練習のため、敬語の練習のため、初級文法の復習と中級文法の学習のため、タスクを行うためなど、先生方の個性を生かして、自由にお使いください。この「授業のヒント」では、これまで筆者らが行った授業から、使い方の一例としての提案を掲載いたします。



Ⅱ. すべての Chapter に共通する指導の仕方



ここでは全体に共通する指導の仕方について解説します。

◆チャレンジ

この Chapter での学習項目につながる導入部分です。簡単な課題に取り組むことで、学生のモチベーションを高めてください。

◆会話

「チャレンジ」で紹介された話題がどのように使われているかを会話で確認します。場面、登場人物、会話の機能、スピーチレベル（普通体か丁寧体か）に注目させてください。

【準備】

「会話」に入る前に次の1)～3)を説明して確認しておきます。

- 1) 色が着いているところは重要な表現として練習するので、覚えて正しく言えるようにすること
- 2) 下線があるところは、主に初級で学習した文法なので、覚えているか確認すること。中には中級文法もあるので意味を考えながら聞くようにすること
- 3) 難しい語彙には英訳があること

【授業の流れ】

次のような流れで会話の部分の授業を行います。

- 1) 「会話」に出てくる表現や文法を取り上げて学習することを説明します。
- 2) 場面を説明して音声を聞かせます。テキストを見せずに聞かせてください。聴解力が低い学生がいる場合は、テキストを見ながら聞かせても構いません。「会話」に取り組むことで、教師は今回の学習目標を提示し、学生は自分がどの程度理解できるかという現在の自分の能力を確認することができます。そのため、学生に大きな学習ストレスがかからないようにしてください。また、テキストの137ページ以降の「会話」では、ルビや下線、マーカー、翻訳を削除したものを掲載していますので、授業の目的に合わせて活用してください。
- 3) どの程度理解できたかを簡単に確認します。内容に関する簡単な質問をしたり、聞き取れたことをクラス全体またはペアで確認したりします。クラス全体で確認する場合、教師が「会話」の内容を詳しく説明しすぎないように注意してください。キーワードや登場人物、場面など、どのくらい理解できたかの確認程度で十分です。ペアで



確認する場合は、まとめとして教師からの説明やフィードバック（以下 FB）は行わず、今わからなかったことは学習しながら確認するようにと学生に伝えます。ペアでの情報交換の中で、はじめに「会話」を聞いたときにはわからなかったことが、わかる場合もあります。学生の「学び」に注目した授業を行う場合、ペアでの確認をお勧めします。

4) 今は全部わからなくても、これからの練習の後でわかるようになることを説明します。

◆Pick Up

その Section でポイントとなる表現の説明を行います。テキストの例文、解説、イントネーションカーブ、意味のまとまりを示す区切りの記号を活用します。

【表現の意味と使い方の説明】

文法的な構造を細かく説明するのではなく、その表現を使う目的や文脈などの使い方を中心に説明し、学生には表現をそのまま覚えるように伝えてください。例えば Chapter 1 Section 1 ④のような長い文で固有名詞が入る場合は、表現の固定部分のみ覚えて、テキストの固有名詞を学生自身の情報と入れ換えて覚えさせても構いません。

【表現の発音】

初回はイントネーションと区切りについて説明してください。前述のように、イントネーションは声の上がり下がりのイメージとして捉えること、区切りはそこでポーズを入れるという意味ではなく、区切りと区切りの間では切らないよう一気に発話すると聞きやすくなること、文が長くて途中で切りたいときは、区切りのあるところで切って、短いポーズを入れることができることなどを説明します。

*練習方法

「Pick Up」の各表現を1～2回発音練習をします。このとき、テキストの例文は見なくてもどちらでも構いません。イントネーション、区切りを見ながらモデル音声を聞き、リピート（モデル音声を読み終わった後に繰り返す練習方法）させます。また2回目は、シャドウイング（音声が始まったら、0.5秒ぐらいあとから、同じ文を発音する方法）で練習してもいいでしょう。リピートは、音そのものやイントネーションを正確に発音するのに効果があります。一方シャドウイングは、もともとは同時通訳のトレーニングの一つでしたが、最近では、発音練習にも効果があると言われており、リズムやタイミング、アクセントやイントネーションなどプロソディー（韻律）を養成するのに役に立ちます。プロソディーを習得することでより日本語らしい発音を習得することができます。



【確認のQ&A】

意味や使い方を理解しているか、一問一答の質問をして確認します。

例) T「～さんの町はどこですか？」 S「～っていう町です」など

*T=教師 S=学生

◆表現練習

「Pick Up」で取り上げた表現を短い会話で練習します。ペアまたはグループで、置き換え練習や入れ換え練習をします。

【練習の流れ】

| | |
|--------|---|
| 置き換え練習 | 1. ペアになる 2. 教師がポイントの表現・文法の確認をする 3. モデル会話で練習する（学生による意味・状況の確認） 4. ①～②の言葉や文を用いて置き換え練習をする 5. ③自由に言葉や文を考えて練習する |
| 入れ換え練習 | 1. ペアになる 2. 教師がポイントの表現・文法の確認をする 3. モデル会話で練習をする（学生による意味・状況の確認） 4. <u> </u> に自由に言葉や文を入れて練習をする |

***もう少し詳しく具体的に説明すると次の通りです。**

- ① ペアになります。ペアはその都度相手を変えてもいいですが、固定でも構いません。
- ② あるペアにモデル対話を読ませて、内容と表現を確認してから、それぞれのペアで練習を始めます。
- ③ 会話モデル、例①～③の置き換え、入れ換え練習をペアで行います。③の自由に入れ換える練習では、**思いついたままの文を用いて練習することで、会話の瞬発力を養成します**。学生が表現をすぐに思いつかない場合は、少し考える時間を与えてから始めても構いません。学生の中には会話の構成を考えてから発話したいと考える学生もいるので、学生をよく観察し、学生のタイプに合わせた指導を行うと効果が上がります。
- ④ 学生がペアで練習している間、教師は教室を回って、確認、訂正、アドバイス、FBを行います。
- ⑤ 時間があれば、1～2組のペアに①～③を発表させます。時間がないときは、③のみ発表させるのでも構いません。**クラスの前で発表することで、学生はオリジナリティーのある会話を発表しようとして、モチベーションも上がります。**



◆文法

「会話」の中に出てきた重要な文法を取り上げています。主に初級で学習したものですが、中級の文法も含まれています。文法の解説を使いながら、文法の説明や確認をします。文法の説明の際、文法項目の接続や活用を例文を使って確認します。活用が関係する場合は、例を出して簡単な練習をします（例 「～たばかり」の練習の場合：T「食べる」－S「食べたばかりです」など）。次に、使い方を確認します。どういうときに使い、どんな機能があり、相手にどんな印象を与えるかなどについてコメントします。このテキストでは、特に文法がどのように使われるかという点を取り上げて、簡潔に説明していますので、テキストの説明を活用してください。学生が理解しているものは、割愛しても構いません。

- ※ 1 文法項目で紹介している使用の例は、基本的に「会話」からの抜粋ですが、中には理解しやすさを重視して、それ以外の例も載せている場合があります。
- ※ 2 文法項目は、基本的に「会話」での提出順になっていますが、文法項目が「会話」全体に及ぶ場合や複数箇所ある場合は、最初や最後にまとめて書いてあることがあります。

◆文法練習

「文法」で取り上げた表現を短い会話で練習します。ペアまたはグループで、置き換え練習、入れ換え練習をします。「表現練習」と同じ流れで練習を進めてください。「文法練習」は与えられた語を活用させたり、文に合わせて変化させたりする練習です。文法が会話でどのように使われるかに焦点をあてて練習させましょう。「文法練習」では、与えられた言葉を活用させてから置き換えする場合は、活用を先にしておいてから練習しても構いませんが、**即座に活用させて練習させると会話の瞬発力をつける練習になります。**

◆タスク

その Section で学習した表現と文法を、「話す」「読む」「書く」というコミュニケーションの中で練習します。

【話しましょう】

基本的にペアになって、与えられた条件でロールプレイを行う練習です。その Section の学習項目が使用できる会話の設定されているので、できるだけ学習した表現や文法を使って話すように促してください。Section によって問題数が異なりますが、時間に余裕があれば全て行くとよいでしょう。授業やスケジュールに合わせて、問題を取捨選択してください。クラスメートとのペア練習だけでなく、日本語母語話者をクラスに招いて会話を行うと現実真実性が増し、学生の「学び」も増します。

【書きましょう】



時間があれば、授業中に行っても構いません。学生が書いたものは必ず教師がチェックし、学習項目が正しく使われているかを確認してください。「書きましょう」に対応した宿題シートが HP からダウンロードできますので、活用してください。

【読みましょう】

その Section で練習した表現や文法が使われているので、そこに気をつけて読ませてください。学生の読む能力に合わせて、読む時間を設定するとよいでしょう。読み終わったら、質問に答えさせてください。学生によってかかる時間が異なる場合は、終了した学生から教師が解答をチェックし、時間が来たらクラス全体で確認してください。

◆聞き取り練習

その Section の学習項目を聞き取り練習で復習します。学生の聴解能力にもよりますが、基本的に合計で3回聞かせます。「聞き取り練習」に対応したワークシートが HP からダウンロードできますので、学生に提出させて、どの程度正解できたかを確認するために活用してください。授業は以下の順序で行います。

【授業の流れ】

- 1) 問題ごとに1度音声を聞かせて、問題を解かせます。問題によっては、音声を聞く前に質問を読ませます。
- 2) 再度音声を聞かせて、自分の解答を確認させます。
- 3) クラス全体で答え合わせをして、聞き取りのポイントについて簡単に解説します。
- 4) 最後にもう一度聞かせます。このときに巻末のスク립トを見ながら聞かせて、間違ったところを確認させてもいいでしょう。学生の理解度やリクエストなどで聞かせる回数を増やすことも可能です。聞き取り練習が終わったら、最初の「会話」をもう一度聞かせて、学習前と比べて理解が進んだかどうかを、学生自身に確認させてください。そうすることで、学生は自分の理解度が上がったことに気づき、今後の学習へのモチベーションも上がるでしょう。

以上が1つの Section の流れになります。

